

相模原市に見る規制緩和  
開店前に潰れるコンビニ  
日本計量史学会理事

新井宏

相模原に住んで五十年  
近くなる。町村合併によ  
つて、市制を敷いたのが  
昭和二十五年。市役所は  
各町村とは別に、新たに  
相模原台地の中央部に定  
められた。その近くの我  
が家は、地図上だけは「一  
等地」にある。

そもそも相模原市は陸  
軍の軍都で、造兵廠など  
を中心にして、昭和十二  
年に都市計画が行われた。  
市役所前通りは道路幅が  
四十<sup>メートル</sup>、周辺の大路は二  
十五<sup>メートル</sup>、我が家の前も十  
二<sup>メートル</sup>、横の小路でさえ六  
<sup>メートル</sup>で、隅切りも立派に  
ある。

近くを通る十六号線も、  
市役所近くだけ四十<sup>メートル</sup>幅  
で、昔からフアミレスの  
激戦地。十<sup>メートル</sup>ほどの間に  
約五十軒あり、その多く  
が二十台以上の駐車場を  
備えている。名の通った  
チェーン店は必ずある。  
十六号線に出店して営業  
できたら、全国展開をす  
るのだという。

最近の大きな変化は超  
高層ビルの建設ラッシュ  
である。東京都心ならい  
ざ知らず、相模原市に十  
八階建て以上のビルだけ  
でも二十一棟も出来たの  
である。小泉首相の規制  
緩和によるが、今もその  
流れは止まらない。  
その結果、何が起きた

か。便利な所と郊外の格  
差拡大である。高度成長  
期に争って買い求めたサ  
ラリーマンの住宅地は、  
概して相模原の「田舎」  
にある。それでも一戸建  
てに入居でき、土地の値  
上がりもあつて、幸せを  
享受していた。続いて、  
相続税対策で急速に広ま  
った民間アパート建設ブ  
ームも主として郊外に建  
てられた。

しかし駅近くに、便利  
な高層マンションができ  
始めると、郊外の民間ア  
パートは、次々に空室化  
する。

相模原市の発展を支え  
た工場群が地方の新工場  
に移転し、空地化した工  
場跡には、超高層ビルや  
大型住宅団地が開発され、  
かつての一戸建て地域は  
「過疎化」して行く。

地価は三分の一まで下  
がった。無秩序に開発さ  
れた「田舎」が再び「田  
舎」に回帰している。

そもそも規制緩和とは  
既得権の破壊である。

理髪店は組合組織によ  
つて、三千五百円の料金  
を守っていたが、今や千  
円カットの時代である。

酒類の量販店が続々誕  
生すると、やって行けな  
くなった酒屋さんは次々  
にコンビニに変身。酒の  
販売もできたから、当初  
は順調であった。しかし、  
道路脇に駐車が出来ない  
小規模コンビニからつぶ  
れ始める。

かわつて数台の駐車場  
を持つ中規模のコンビニ  
が一気に広まったが、現  
在では、駐車場が三百坪  
というのが相模原のコン  
ビニの標準である。

小さなコンビニが一掃  
され、中規模のコンビニ  
がばたばたつぶれて行く  
なかで、大型コンビニの  
出店競争は熾烈である。

先日も大型コンビニが  
開店したばかりだとい  
うのに、その百<sup>メートル</sup>先に大型  
コンビニの工事が始まっ  
た。建物は、あつという  
間に出来上がったが、駐  
車場や出入り口の工事に  
手間取っていて、突貫工  
事の様子が見られなくな  
った。どうやら、予定し  
ていたコンビニに逃げら  
れたしまったらしく、開  
店を前にして早くもつぶ  
れてしまった。

このようなコンビニ出  
店競争は、超大型スーパ  
ーの乱立と共に、相模原  
から小売店を完全に一掃  
してしまった。何とか営  
業しているのは食物屋さ  
んだけである。

我が家から五百<sup>メートル</sup>以内  
に十店ほどのコンビニが  
あるが、かならず立派な  
駐車場を持っている。相  
模原ではコンビニとは歩  
いて行くところではない  
らしい。

(前韓国国立慶尚大学招  
聘教授、元日本金属工業  
常務、金属考古学、計量  
史)